

2024 年のアユの遡上状況

遡上尾数は「例年並み」、遡上魚の体サイズは「大型」と推定

常盤川(図1)における投網1回あたりのアユの採捕尾数が多い年は、米代川水系だけではなく、雄物川、子吉川水系などでも遡上量が多いことが明らかになっています。

2024年の常盤川における4月下旬～6月中旬(4月23日～6月12日)までの投網1回あたりの採捕尾数は1.0尾/回と、例年並み(2010～2023年平均値:1.0尾/回)でした(図2)。

調査地点が友釣り漁場内に位置する阿仁川の米内沢頭首工(図1)では、アユの初確認日は例年(6月11日:2010～2022年までの月日の平均値)よりも6日早い6月5日であり、遡上魚の平均全長は18.1cmと過去最大でした(図3)。

これまでの調査結果から、6月までに米内沢頭首工を遡上するアユの尾数が多い年ほど、シーズン初期の釣獲尾数が多くなるため、好天が続けば解禁日には例年よりも大型のアユが数多く釣れると予想されます。

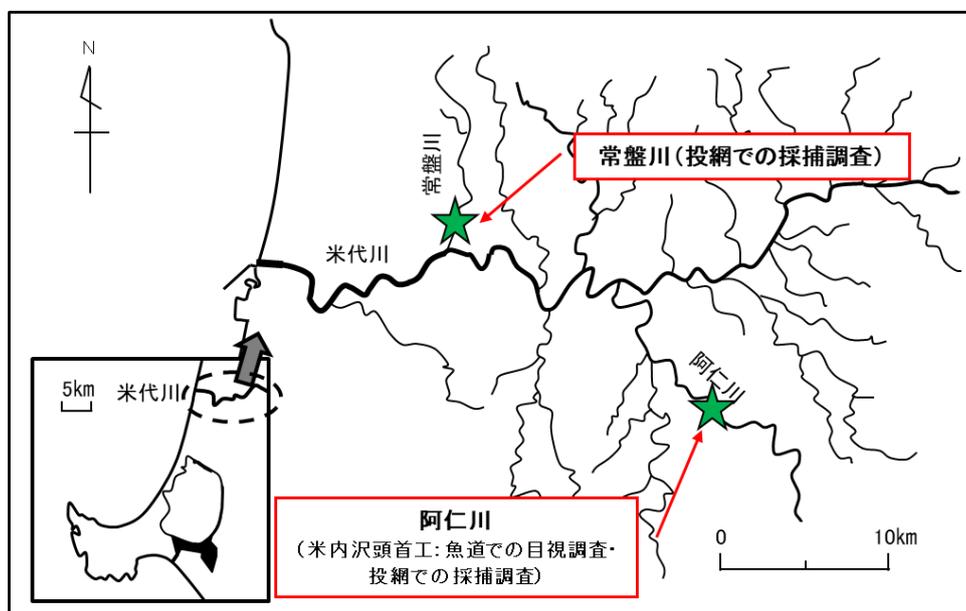


図1 調査河川

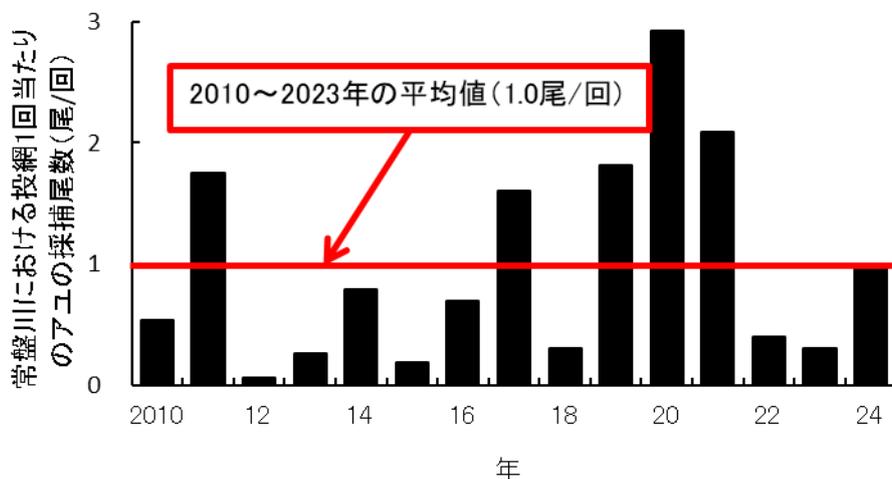


図2 常盤川におけるアユの採捕尾数

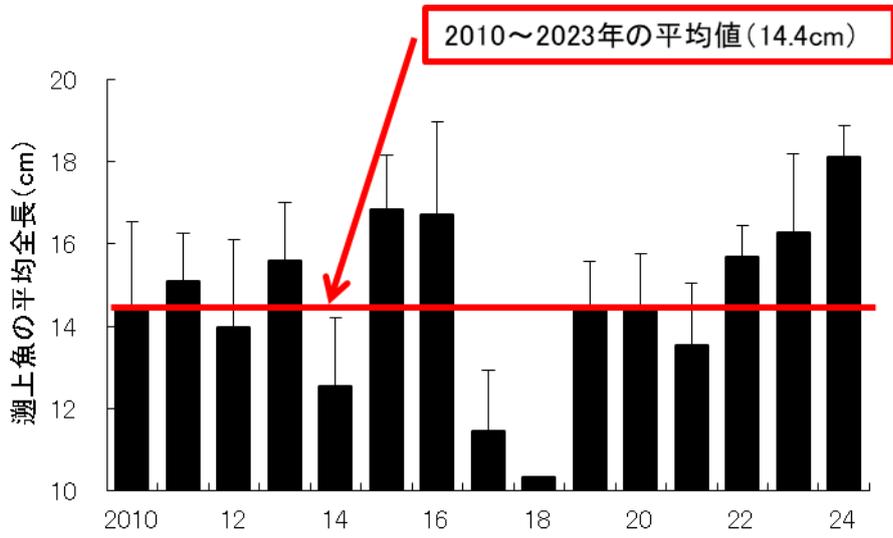


図3 阿仁川米内沢頭首工を遡上したアユの平均全長
 [棒グラフ上の縦線は標準偏差（データのばらつき）を示す]